

酪農ヘルパー情報



令和元年度一般社団法人酪農ヘルパー全国協会会長表彰受賞者の皆さん

今号の内容

(1) 令和元年度酪農ヘルパー事業中央研究会

◆酪農ヘルパー事業事例発表

- ① 藪内 公二 氏 東宗谷農業協同組合 営農部酪農生産課課長
- ② 安原 剛 氏 ひので酪農業協同組合 業務部指導課
- ③ 揚松 利成 氏 デーリィサポートかごしま 専任ヘルパー
- ④ 高野 謙也 氏 北海道別海町 酪農家・元酪農ヘルパー

◆令和元年度会長表彰受賞者一覧

(2) 令和2年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修について

◆令和元年度養成研修参加者の感想

(3) 「新・農業人フェア」東京・大阪の会場でブース出展

——スマートフォンによる出役管理、独自の資格制度による酪農家支援などを紹介——

令和元年度酪農ヘルパー事業中央研究会を開催

令和元年12月3日（火）、東京都千代田区の日本教育会館で令和元年度酪農ヘルパー事業中央研究会が開催され、各都道府県の利用組合や中央団体関係者など約100名が出席した。

研究会では、先進的な取り組みを行う関係者から4つの事例発表があった。はじめに北海道・東宗谷農業協同組合営農部酪農生産課長・藪内公二氏から「ヘルパー事業におけるスマートフォン等の活用事例」と題して、新たに構築した予約管理システムによる酪農家の利便性向上と労働環境改善について紹介があった。藪内課長は「ほぼその場で日程の確認と予約ができるため、生産者の方からは非常に好評。また付加価値として現状の人手不足をご理解いただけた」とメリットを述べた。

続いて、茨城県・ひので酪農業協同組合が創設した酪農ヘルパーの資格認定制度について同酪農協業務指導課の安原剛氏が解説した。同酪農協では資格認定による技術向上とそれを裏付けとした酪農ヘルパーの説得力向上により酪農家への支援につなげたいと話す。

三つ目の事例発表は鹿児島県・デーリィサポートかごしまで専任ヘルパーを務める揚松利成氏が、鹿児島県内の離島も含めた地域間におけるヘルパー出役の連携について紹介した。

最後は、酪農ヘルパーとして8年間活躍した後、地元で新規就農を果たした高野謙也さんが就農までの経緯と今後の展望について発表した。高野さんは「酪農ヘルパーとして長年勤めていたから、地域の方々が助けてくれた。経営を軌道に乗せたら今度は自分がその立場として次の世代の力になっていきたい」と酪農家の立場で新規就農の支援について語った。

◆「年間利用日数は0.3日増の23.1日(全国平均)」 全国協会・砂金会長

酪農ヘルパー全国協会・砂金甚太郎会長は主催者挨拶の冒頭で、昨年の台風15号、19号による河川の氾濫、道路の遮断、停電とそれに伴う生乳の廃棄について「被害にあわれた方々の1日も早い復帰を



パネルディスカッションは事例発表に対する質問をもとに展開



砂金会長

祈念申し上げる」とお見舞いを述べた。

続いて令和元年の利用実態調査から「全国の酪農ヘルパー要員数は専任・臨時含めて1,832名で昨年より56名減っている。一方、一戸あたりの年間利用日数は昨年より0.3日増の23.1日（全国平均）となっており、多くの利用組合において人材確保にご苦労されている。特に臨時酪農ヘルパーは37名減少し、傷病時の対応にご苦労していることがうかがえる」と要員不足の状況にあることを説明。その対策として、学生インターンシップ（平成29年度～）や認知度向上のための推進事業（平成30年度～）に引き続き取り組んでいることを紹介し、これらの事業に対する都道府県団体や利用組合からの支援に感謝を述べた。

◆「認知度向上の取組みは継続することで効果が 高まる」農水省畜産企画課・今崎裕一課長補佐

来賓挨拶をした農林水産省畜産企画課の今崎裕一課長補佐は、「農家戸数は毎年4%程度の減少傾向にある。また生乳生産量を見ても北海道は増産傾向にあるものの、都府県は減産傾向。やはり後継者不足による離農が大きな課題となっている。そうしたなかで、酪農ヘルパーの業務が非常に重要な位置づけになってくる」と酪農ヘルパー制度の重要性を訴えた。そのうえで「酪農ヘルパーの認知度を高めるためにもっとPRしなければいけない、という意見も踏まえて、来年度も農水省として農畜産業振興事業でしっかりと支援していきたいと考えている」と話した。



今崎課長補佐

事例発表①

ヘルパー事業における スマートフォン等の活用事例

東宗谷農業協同組合 営農部酪農生産課課長
藪内 公二 氏

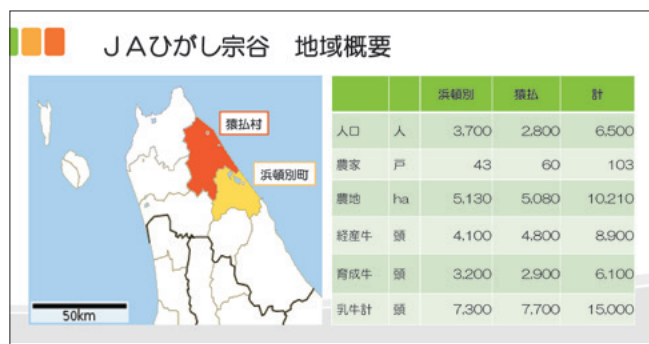


◆地域とヘルパー組合の概要

はじめに東宗谷農業協同組合について説明します。当農協は平成12年に2町村のJAが合併し誕生しました。酪農専業農協として、管理業務、貯金・融資、保険、営農関係、そして預託牧場を含めた畜産事業、経済事業で運営しています。

地域の人口は6,500人、農家戸数103戸、乳牛は経産牛が8,900、育成牛が6,100。合計すると約15,000頭で、人口の2～3倍いることになります。

図表1



合併後、次々とTMRセンターが立ち上がり、現在、5カ所のTMRセンターが稼働。これに伴い、出荷乳量も合併当初の年間約60,000 tから約76,000 tに、出荷割合もTMRセンター所属農家が半分を超えてきています。乳量の増減で見ても、個人収穫農家ではこの15年間で1割減少しているのに対して、TMRセンター所属農家は大きく伸びてきています。

ヘルパー組合は猿払村の支所、浜頓別町の本所に一つずつ立ち上げ、概ね全戸加入しています。現在の職員数はそれぞれ5名ですが、今年度中に1名ずつ両地区で新規就農を予定しています。

最低1日1名から利用が可能で、0.5日単位で対応します。農家さんが不在の場合は2名対応となります。

利用料金・職員の給与とも両組合で大きく変わりません。利用形態は予約型で、原則として3ヵ月前から受け付けます。生産者がファックスで希望日を入れるとヘルパー組合の主任が調整、予約確定したらファックスを返すという形です。通常の予約は利用日の10日前までで、これを過ぎるとすべて緊急予約として対応します。一方、空が多い時は利用組合から農家に割り当てる場合もあります。

派遣の流れや利用料金等、詳細は年1回の総会等で設定、毎年、利用手引きを作成して全農家に送っています。

◆予約システムの整備

当組合でも慢性的な人手不足と生産者の高齢化、飼養環境の変化、増頭、生活スタイルの変化、そして生産者の減少という課題を抱えていました。そこでファックスによる業務の負担を減らすという目的で予約システムを整備することとしました。最初は予約システム自体の変更案も出ましたが、やはり現行の予約制度の中で可能性を探ろうと言うことで、まずは状況確認の迅速化を考えました。

やはり一から酪農を理解している開発業者は少ないのですが、もともと当農協では各農家が現状の牛舎・頭数・生産乳量・乳検等のデータをタブレットおよびスマートフォンで確認できる「家畜統合管理システム」を構築しており、そのためにタブレットを全戸に配布したという経緯があります。こうしたシステムを構築した事業者であれば開発～導入～普及という各段階がスムーズにいくのではないかと考えて進めました。

18年の春先から打ち合わせを繰り返し10月から開

◆酪農ヘルパー管理システムの概要

酪農ヘルパー管理システムの概要

畜舎経営管理システム（農場統合システム・農協版）および畜舎インフォメーションシステム（独自システムの構築予定）に、「酪農ヘルパー管理システム」をリンクします。

- ・予約申請
- ・空き状況確認
- ヘルパースタンド
ヘルパー管理
- 予約申請確認
- 出役報告書提出
- ヘルパーデータベース

・タブレット、PC
スマートフォンで利用可
(iOS,Win,Android)

【ヘルパー予約申請業務の流れ】

- ・ヘルパー管理側では、ヘルパーの出役配置登録を行います。
- ・畜舎側では、ヘルパー空き状況を確認し予約の手続きをします。
- ・予約申請後に「ヘルパー管理組合担当者」がFAX申請分と合わせて、ヘルパー出役配置を依頼します。

システムの権限はJA（ヘルパー事務局）も含め4段階に分けています。農家は予約状況の照会と申請状況、ヘルパー主任は日報の入力、出役状況、配置の登録、そして実績の照会です。ヘルパーの一般職員は、日報の入力と出役状況の照会です。

酪農ヘルパー管理システムの機能					
農家からのヘルパー予約機能は農家イノベーション（外部）					
ヘルパー出役配置や各種帳票は家畜統合管理システム（内部）に分けて表示します。					
	機能	機能概要	メニュー制図		
			JA	農家	ヘルパー （外部）
外部から	ヘルパー予約依頼書	ヘルパーの予約状況を確認することができます。	○	○	
	ヘルパー予約申込	ヘルパーの予約申請を行います。		○	
	ヘルパー自入力	ヘルパーの自入力を行います。	○		○
	ヘルパー出役配置依頼書	ヘルパーの出役配置依頼をします。	○	○	○
	ヘルパー予約申込書印刷	ヘルパーの予約申込書を作成します。	○	○	
内部から	ヘルパー出役実績報告	ヘルパーの出役実績を報告します。		○	○
	ヘルパー出役実績報告書	ヘルパーの出役実績報告書を作成します。		○	○
	ヘルパー出役実績入力	ヘルパーの出役実績を入力、修正、削除を行います。		○	○
	ヘルパー料金マスタ	ヘルパー料金のマスタメンテナンスを行います。	○		
	ヘルパー経費集計マスタ	ヘルパー経費集計の総額や経費集計のマスタメンテナンスを行います。	○		

また今までも農家の個別の報告書は作成していたのですが、今後はデータベースとして、農家ごとのカルテにしたいと考えています。そして最終的には給与明細等の出力までつなげる形にしようと計画しています。

生産者側インフォメーション（外部）リンク画面

2020年10月～2020年12月 期間別データ

期間別生産量

期間別出荷量

期間別在庫量

作業記録 カレンダー 申込・報告

領収リスト 領収印刷 生乳情報

グラフ情報 販売情報 自己管理

経営ヘルパー

ログイン/ログアウト 管理画面 通知設定 お問い合わせ トップ

生産者側インフォメーション (外部) 照会

手動更新ボタンです。

OK

[illegible]

空いている日をクリックすると、予約申請に移ります(図表6)。開始日時と終了日時、朝晩、人数。事前に引き継ぎが必要な事項がある場合はここ

図表7

ヘルパー職員側インフォメーション（外部）照会

ヘルパー作業状況

2019年11月

出役区分: 農休

作業日: 2019/11/23 PM

引継ぎ: なし

農場: 茂

ヘルパー: 森田

ヘルパー一覧

ヘルパー	作業日	時間	農場	出役区分
1 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
2 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
3 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
4 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
5 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
6 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
7 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
8 森田	2019/11/23	PM	茂	農休
9 森田	2019/11/23	PM	茂	農休

図表8

ヘルパー職員側インフォメーション（外部）日報

ヘルパー日報入力

出役区分: 農休, 緊急, 割当, 研修, 異常監視, 休職

休業区分: 月休, 有給, 出役, 休職

作業日: 2019/11/10 AM

時間: 10:00 ~ 12:00

農場: 茂

ヘルパー: 宇田川

車区分: 個人車, リース, 農協車, その他

車種コード: 18.9

走行距離: 18.9

ヘルパー日報入力

農場: 茂

作業日: 2019/11/10 AM

時間: 10:00 ~ 12:00

ヘルパー: 宇田川

車区分: 個人車, リース, 農協車, その他

車種コード: 18.9

走行距離: 18.9

に登録していただきます。基本的には先着順ですが、申し込み理由も必ず入力してもらうようにしています。

図表7～8はヘルパー職員が見る場合の画面です。画面を開くと、名前と出役先の牧場と期間がわかります。休みの場合は月休み/有給休暇も表示しています。この画面は当然ながら職員しか見ることはできません。

業務が終了したらシステム画面から日報を入力してもらいます。まず、どのような理由で出役したか（農休、緊急、割当、等）。作業日時、時間、リース車/個人の車の借り上げ、走行距離を入力します。休暇の報告もこの日報形式で申請してもらいます。

図表9は農協職員および事務局が確認する画面で

図表9

組合側 家畜統合システム（内部）リンク画面

ヘルパー

ヘルパー予約申請状況

ヘルパー出役実績一覧

ヘルパー出役配属入力

農場別ヘルパー出役実績

農場別ヘルパー出役配属

クミカンFD販売実績

ヘルパー別月集計出力

農場別ヘルパー出役集計出力

農場別ヘルパー出役配属出力

ヘルパー個人別明細出力

ヘルパー給与明細出力

ヘルパー移動距離出力

ヘルパー料金マスタ

ヘルパー担当マスタ

ヘルパー日報入力

ヘルパー電話システム出力

ヘルパー予約申請一覧

ヘルパー車両マスタ

す。リンク先から、誰がいつ、どの農家に引き継ぎありなしで行ったのか等、日報と報告書から確認できます。主任のみに与えられた権限である出役配置もここから行います。

組合側では日報を基準に集計をかけられます。最終的にはどのヘルパーがどの農家に出役しているか、農家は年間を通して何件、利用しているか。それが全出役の何割かを把握し、偏りの防止と偏りによる不満をできるだけなくしたいと考えています。

◆導入のメリットと今後の課題

導入後のメリットに関しては農家がある場で空き状況を確認し予約申請できること。それによりほぼ予約が確定できるので非常に好評をいただいています。職員に関しても自分以外も含めて日程を確認できるようになり、調整しやすくなったことで非常に好評です。

事務局や主任による集計業務、主任が忙しい時の事務局による受付対応についても大幅に軽減されました。

また、付加価値として利用者・生産者に現状の人手不足を理解いただけたことが大きいと思っています。ここはすこし我慢してヘルパーにも休ませなければだめだとご理解いただける生産者が増えた実感しています。

課題の第一は、現状ではファックスと併用していることです。そのためシステム上、その場で確定させることができず、大きな課題となっています。現在、ファックスでの申請に対して予約確定のお知らせはファックスで返しています。今後は受付確定のお知らせを携帯メールに送信することも視野に入れています。

第二は全農家が空き状況を把握できることはメリットで述べたとおりですが、反面、空きが少ないことに対する不満や緊急事態に融通が利かないなどの声も出ています。

◆最後に

課題はあるものの利用者・職員とも概ね好評をいただいています。ファックス制度は負担も大きいということで最終的には廃止の方向で考えています。

事例発表②

「ひので酪農ヘルパー 資格認定制度」への取り組み

ひので酪農業協同組合 業務部指導課
安原 剛 氏

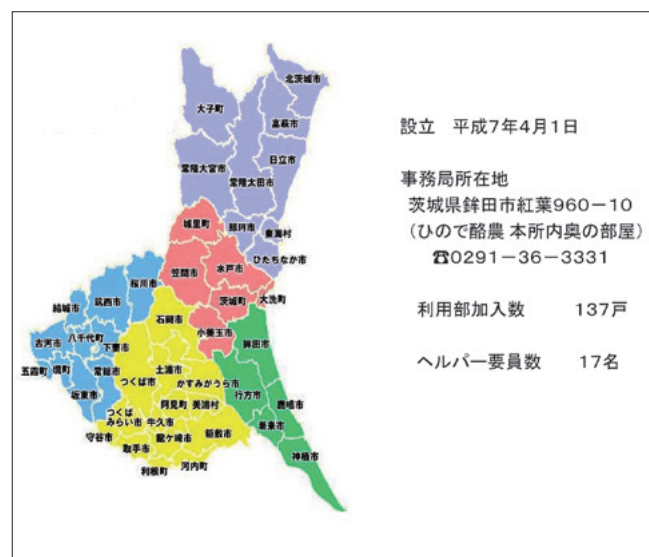


◆ひので酪農ヘルパー利用部の概要

ひので酪農業協同組合は平成7年4月1日に茨城県東部の5つの酪農協が合併して誕生しました。合併以前より各組合にあったヘルパー組織は規約や出役方法がバラバラであったため、合併と同時に統一したヘルパー利用部の規約を作りました。

平成27年10月に2つの組合、平成28年10月にも2つの組合と合併しました。酪農ヘルパー利用部は業務部指導課の下部組織に属しており、事務局は鉾田市のひので酪農協本所事務所にあります。

図表1



現在の組合員数は150戸、ヘルパー利用部の加入農家数は137戸、加入率は9割を超えており、未加入の方は従業員を雇用しているか外国人研修生を受け入れています。

ヘルパー要員は専従ヘルパー8名、パートタイムヘルパー4名、臨時ヘルパー5名、合計17名で、そのうち2名が女性です。人員の配置として本所管内

が15名、常総出張所管内が2名です。年齢は20代から30代が多く、とてもエネルギッシュに稼働しています。

雇用形態は専従ヘルパーが正職員、パートタイムヘルパーが準職員、臨時ヘルパーが組合と業務委託契約をした個人事業主となります。3種類の雇用形態がありますが、仕事の内容に違いはありません。

以前はパートタイムヘルパーという雇用形態はありませんでした。しかし当組合も要員の確保に苦労した時期があり、採用する際にはできる限り長く働いてほしいと思いました。そうすると給与金額だけでなく、安心して働けるための保障も大切であり、社会保障を完備したパートタイムヘルパー＝準職員という雇用形態を作りました。準職員として3年間勤続すると専従ヘルパー（正職員）としての採用を打診しており、実際、専従ヘルパーとなって活躍されている方もいます。

また、社会保障を完備することでハローワークや学校関係にも求人が可能となり、人材の確保にもプラスとなりました。

出役に関しては基本的に夕方～翌朝の出役で一日となります。自家用車を使用し自宅から牛舎への直行直帰でたまに事務所に寄るという感じです。自家用車を使用するため、車両の借上料、燃料費を支給します。“ヘルパーは技術職”という考えのもと、専従ヘルパーには技術手当として勤続年数に応じた手当を支給しています。

ヘルパー利用部の事業方針です。「周年労働を強いられている酪農家に定期的な休暇並びに緊急時畜主に代わって搾乳及び飼養管理作業をし、過重労働の低減、心身の静養と後継者の確保及び福利増進を図り、酪農経営の安定・安心に寄与する」ことを目

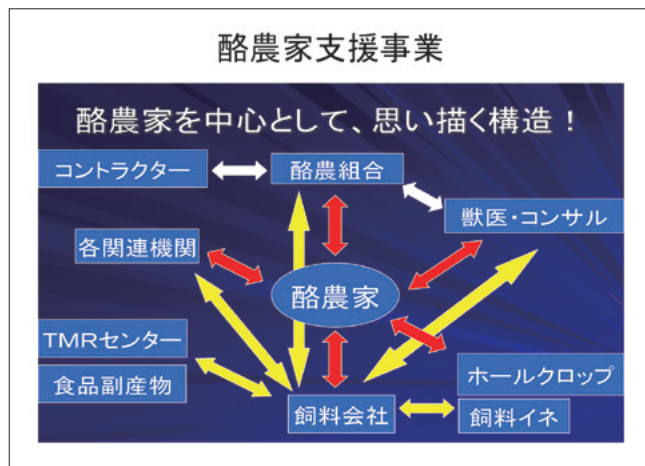
的としています。簡単に言うなら、ヘルパー事業は酪農家の福利厚生にあたり、なくてはならないものと考えます。

◆資格認定制度創設

約10年前にひので酪農協による酪農家支援事業の一環としてパートナーヘルパー事業を立ち上げました。

酪農家支援事業とは、酪農家の減少を防ぐため、酪農協や酪農に関わるすべての関係機関の総合力で支援していこうという事業です。図の中央にいる酪農家を酪農協、獣医、コンサル、飼料会社、食品副産物、とにかく全員で盛り上げようということで、その一つにパートナーヘルパー事業がありました。

図表2



パートナーヘルパー事業とは、旬毎の定期検査においてバルク乳の体細胞数の高い組合員が、酪農ヘルパーや獣医等と相談しながら乳質を改善・向上させることを目的とした事業です。専従ヘルパーが

図表3



ローテーションに余裕がある日を利用し、ミルクメーターでサンプルを採取、個体別の乳量や乳成分を把握した上で、搾乳手順と機器の洗浄・点検整備法について相談し改善を図るというものでした。

しかしヘルパー要員の退職が相次ぎ、本業のヘルパーの稼働率が上がったためパートナーヘルパーをやっている余裕もなくなり、事業自体が休業となりました。

その後、要員個々の頑張りと求人活動の甲斐もあり、徐々に円滑に稼働できるようになったことから、再度、酪農家支援事業のパートナーヘルパー事業を見つめ、組合としてできることを考えました。これまで取り組んできた経験から、組合員に改善を提案してもなかなか聞き入れてもらえない場合があります。技術研修を受けているだけでは改善提案をしても説得力が弱いということも感じていました。どうしたらもっとヘルパーが自信を持って改善を提案でき、組合員に聞き入れてもらえるか考えてみたものの、いいアイデアもなく行き詰まりを感じていました。

そこで以前より研修等でお世話になっている中央オリオン(株)に相談したところ、厚生労働省で行っている社内検定認定制度を教えてくださいました。社内検

図表4



定認定制度の詳細内容は厚生労働省ホームページまたは「社内検定 厚生労働省」で検索してください。

新たに創設する資格制度の名称は「ひので酪農ヘルパー資格認定制度」としました。実際には厚生労働省の制度の基準「個々の企業や団体が、そこで働く労働者を対象に自主的に行っている検定制（社内検定）のうち、一定の基準を満たしており、技術振興上奨励すべきであると認めたものを厚生労働大臣が認定する制度」とまではいきませんが、資格を初

級・中級・上級と設定し、初年度は専従ヘルパー全員の初級取得を目指しました。

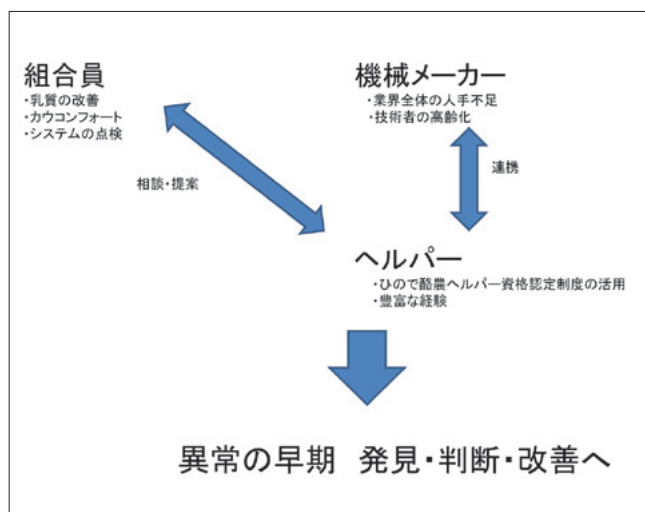
ヘルパー一人一人に事業と制度の話をするとう全員が賛同してくれました。資格を取得し今以上に組合員にいろいろ提案することができる、とモチベーションも上がりました。専従ヘルパーのみならずパートタイムヘルパーにも資格の取得意欲があり、本当に頼もしい限りです。

◆資格制度のコンセプト

現状、組合員の課題や悩みとしては、乳質の改善、カウコンフォート、搾乳システム等の点検があげられます。システムの異常に気づかずそのまま使用を続けると、日々の搾乳に影響が出ます。金銭的にも予定外の高額な負担が発生することもあります。

しかし、茨城県は近隣県と比べ、搾乳システムの点検等を行っている生産者がとても少ないのが現状です。また酪農機械メーカーにおいても、業界全体の人手不足、技術者の高齢化から迅速な対応ができないという悩みがあると聞いています。

図表5



そこで、資格認定制度を取得した自信と技術力、出役で得た豊富な経験を武器に、ヘルパーが組合員との相談や提案、機械メーカーとの連携をとることができれば、異常の早期発見、判断、改善へとつながり、このことが健康な牛作りや良質な生乳生産の実現による酪農経営の安定につながります。

このように、この制度は資格を取得したヘルパーに組合員の抱える問題の解決や、酪農機械メーカー

との連携に一役を担ってもらう事業という組合としてのコンセプトがあります。

図表6



◆最後に

計4回の研修を経て平成31年2月に資格認定試験を行い、期待通り専従ヘルパー全員が無事合格することができました。しかし、資格を取得したからと言って、すぐに実践し結果が出るほど簡単なものではなく、さらなる技術の向上が必要です。今はまだスタートラインに付くためにシューズのひもを確認した段階です。でもきっと彼らならやれるはずです。今年もオリオンさんに協力をいただき、技術向上に努め、より多くの組合員の方に必要とされる事業に発展させたいと思います。

最後になりますが酪農家の皆様、今日も出役しているヘルパーのみんな、そして酪農業界すべての方で今以上にワンチームとなり、酪農を盛り上げていきたいと思っています。

図表7



事例発表③

離島を含む地域間の連携について

デーリィサポートかごしま 専任ヘルパー
揚松 利成 氏



◆デーリィサポートかごしまの概要

私はデーリィサポートかごしまの前身の一つである北薩地区酪農ヘルパー利用組合に平成16年2月に入職しました。鹿児島県の酪農ヘルパー利用組合は昭和61年2月にはじめて大隅酪農ヘルパー利用組合が設立され、その後、各地でヘルパー利用組合が設立、最後に平成11年4月に北薩地区酪農ヘルパー利用組合が設立されました。鹿児島県内の酪農家はヘルパーを利用できる状態になりましたが、現在のようない地区の連携はありませんでした。

自分が就業して5年後、県内8つのヘルパー利用組合が合併して平成21年4月にデーリィサポートかごしまが設立されました。私は北薩地区を担当する専任ヘルパーとなり、設立後10年たった現在も北薩地区で勤務しています。

現在、デーリィサポートかごしまのヘルパー要員は専任23名、臨時7名、合計30名で活動しています。このうち6名が女性です。地区ごとのヘルパー人数は図表1の通りです。

鹿児島県内の搾乳戸数は9月末現在で156戸、デーリィサポートかごしまの組合員は125戸であり、そのうち10戸は肉用牛農家です。私が担当す

図表1

専任ヘルパー	23名
臨時ヘルパー	7名 合計30名
	(うち女性6名)
【地区ごとのヘルパー人数】	
大隅地区	専任5名 臨時2名
南薩地区	専任4名
始良地区	専任5名 臨時1名
種子島地区	臨時3名
日置地区	専任3名
曾於地区	専任4名 臨時1名
北薩地区	専任2名

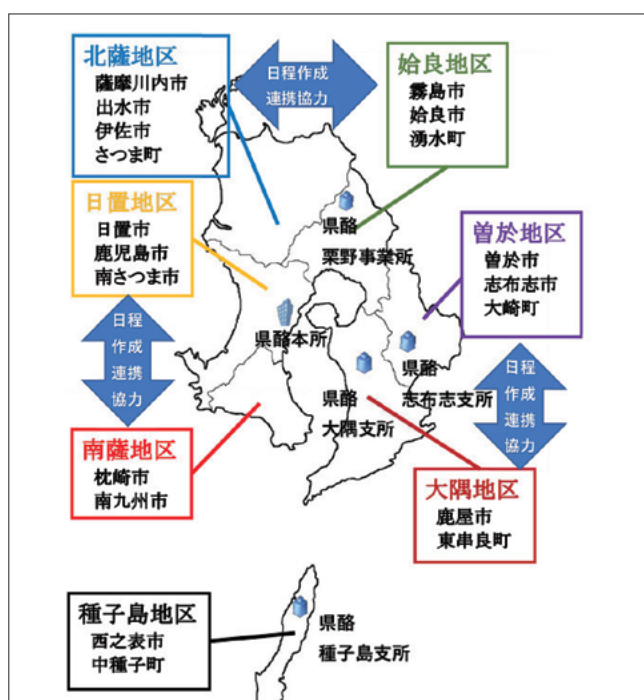
る北薩地区では酪農家が14戸、肉用牛農家6戸、専任ヘルパー2名で活動しています。デーリィサポートかごしまは酪農家だけではなく肉用牛農家も加入しており、鹿児島県内でも北薩地区が一番肉用牛農家が多い地区です。

北薩地区は4市町の自治体で構成されており、20頭から多くても50頭程度であり規模の大きな農家はいません。ほとんどの酪農家がつなぎ牛舎です。

◆他地区との連携

デーリィサポートかごしまの合併とともに地区間の連携も始まりました。図表2の左上が自分が所属している北薩地区で、自分は北の県境である出水市に住んでいます。北薩地区では基本的に始良地区と

図表2



日程作成や連携協力をしています。日置－南薩地区、曾於－大隅地区でも同様の連携をとっています。種子島で傷病等が発生した場合他地区から出役するようになっています。

定例会は北薩と始良が合同で開催し、この時に次月のヘルパー日程の計画を立てています。その場で要員の状況などをお互いに相談しながら作成できるため、すごくスムーズに進められます。また始良以外の地区とも電話連絡などを通じて連携しています。

他地区へ出役する場合、どうしても移動距離が長くなります。朝が早いこの仕事では負担が大きいいため、片道の移動距離が50kmを超える場合、宿泊費を支給する制度があります。これにより夕方出役し、宿泊、翌朝ヘルパー出役後、帰宅という流れになり、距離が遠い場所でも負担が少なくなりました。

デーリィサポートかごしまでは業務のより一層の向上と他地区のヘルパー要員との情報交換や相互交流を深めるため、年に1回、要員研修を行っています。鹿児島県の酪農ヘルパー要員が一堂に会し、交流を図ることで応援に行った時、スムーズに作業手順を確認できたりするので交流は重要だと考えます。

地区の代表要員を集めて問題点などを話し合う代表要員会議も実施しており、情報共有により地区の連携を強化しています。

◆他地区への出役

他地区との連携が始まり、実際に出役する上で最初の問題は出役先の住所がわからなかったことです。今でこそLINEで位置情報を送信して待ち合わせすることもできますが、当初はそういうわけにもいかず、多少遠回りであってもわかりやすい場所で待ち合わせをして連れて行ってもらっていました。

牛舎に着いてからもやはり初めての酪農家ではどう作業していいかわかりませんでした。もちろん指示書に作業内容が書いてあるのですが、農家毎の細かい違いもあり、記載してあることだけすべてがわかるわけではありません。本当にこのやり方で正しいのかわからず、不安でした。それでも間違った作業はできないので、わからないことは必ず

聞くということを自分に徹底し作業を行いました。

◆種子島への出役

鹿児島県の離島の一つに種子島があります。種子島地区の搾乳戸数は23戸、組合員数11戸、臨時ヘルパー3名が活動しています。

私は種子島に2回、応援に行きました。2回とも1週間ほどの滞在でした。1回目は9年ほど前です。この時は傷病が発生し、種子島のヘルパーだけでは対応できないと本土のヘルパーに応援要請があったため、4人で1週間ずつ合計1ヵ月間、出役しました。

初めての土地、初めての農家ということもあり不安でしたが、行ってみれば地元酪農家の方々に暖かく迎えていただき、不安は払拭されて、一週間、気持ちよく過ごすことができました。地元ヘルパー組合の役員さんから「本土からヘルパー応援があったおかげで傷病が発生した酪農家は廃業せずに済んだ。本当に助かった。また何かあったら願いますね」と言っていたことを覚えています。

2年前に2度目の種子島出役の機会が訪れました。今度はかなり唐突で、夕方の作業を始める頃、急に「明日から種子島にヘルパーに行けませんか」と言われ「北薩地区が大丈夫ならいいですよ」と返事しました。北薩地区の日程が調整できたので、翌朝まで作業をした後、そのまま種子島に向かいました。2回目ということもあって気持ちはだいぶ楽でした。この時は4軒の酪農家さんに出役しましたが、どの酪農家さんも好意的で優しくしていただきました。

◆人事交流などにより連携強化へ

鹿児島県の酪農ヘルパー利用組合が合併し、他の地区への出役が可能になったことで、傷病等によりヘルパー要員が不足した際も、酪農家の要望に応えられるようになりました。また酪農ヘルパーにとっても他地区での仕事は自地区ではないような作業があるので、スキルアップなどに繋がっています。

今後は地区のヘルパー要員同士を交換する、交換留学生のような研修も実施して他地区との連携を強化していきたいと思っています。

事例発表④

新規就農事例 「酪農ヘルパーから新規就農へ」

北海道別海町 酪農家・元酪農ヘルパー
高野 謙也 氏



◆プロフィール

はじめに私のプロフィールです。私は昭和57年に北海道別海町で生まれ、今年で37歳となります。平成30年に北海道野付郡別海町大成で就農しました。管轄JAはJA計根別です。

プロフィール		
名前	自分(高野謙也)	妻
年齢	37歳	35歳
子供	一男三女	
出身地	北海道野付郡別海町	北海道標津郡中標津町
就農地	北海道野付郡別海町大成	
管轄JA	JA計根別	
従事者	自分と両親2人、従業員(女・27歳)	
飼養頭数	74頭(内搾乳60頭、育成14頭)	
面積	64ha(内採草60ha、内借地16ha)	
乳量	見込:320t	

妻は中標津町の出身で35歳。また一男三女を授かっています。両親は酪農を営んでいましたが、すでに離農しているため、現在は自分と自分の両親、従業員(女性)の合計4人で作業しています。飼育頭数は搾乳牛60頭、育成牛14頭、合計74頭です。採草地は60ha、うち借地が16haです。来年の乳量は、見込みでは320tとしましたが、現在、営農計画の真っ最中で、農協には370tぐらいは頑張りたいと伝えています。

私の生い立ちです。両親が離農したのは私が17歳の頃でした。自分は5人兄弟の4番目の三男で後を継ぐと言う考えはなく、酪農の仕事に就くことも全く頭にありませんでした。ですが、この“親が離農してしまった”という出来事が自分で新規就農しようという思いにつながったのかもしれません。

高校卒業後は農機具屋やスーツ屋、育成牧場、運送会社、引っ越し会社等で働きました。25歳まで

はいろいろ経験したいと思い、本当にさまざまな仕事をしました。そのなかで育成牧場で働いているときに酪農ヘルパーという仕事を教えていただき、興味もあったので有限会社ファム・エイに入社しました。

◆新規就農を決意

入社後、先輩や同僚で新規就農していく人が結構いたのですが、自分にはまだ厳しいと思い、まずは目の前の酪農ヘルパーの仕事に集中していました。

もともと育成牧場で酪農作業、機械は扱っていたのですが、搾乳や搾乳に関わる機器の知識が乏しかったこともあり、毎日の酪農ヘルパーの仕事はとても充実していました。

酪農ヘルパーをはじめて5年ほどたち、30歳を過ぎた頃から、将来のことを考えるようになりました。いろいろな農家さんから「就農しないのかい?」と聞かれるようになりました。ファム・エイでは主任という役職に就けていただいたこともあって、農家さんと話し合いをすることも多くそういう場でよく聞かれていたのですが、自分では厳しいかな、難しいかなと思っていて、自信がなかったというのが正直なところです。

その頃、子供も3人いたし、子供と妻を支えながらのチャレンジは簡単な話ではないなと自分の中で悩んでいました。しかし、ひよんなきっかけから妻に話してみたら、「やりたければやればいいんじゃない。私はただついていだけだから」と本当に簡単に言われました。そこで吹っ切れて、それなら次のステップにいきたいな、と会社へ新規就農について相談を始めました。

◆8年間の酪農ヘルパー経験を経て得たこと

新規就農を目指すということで気持ちも決まり、どの地で就農するかということを考えてみました。

ファム・エイでは4農協（中標津町農協、計根別農協、道東あさひ農協、標津農協）、戸数で言えば約500戸を請け負っています。自分も主任として一つの地区を任されており、ヘルパーの人数からすると自分が抜けるだけで会社にかかなりの負担がかかってしまうという気持ちもありました。

ただやっぱり自分は就農したいという思いのほうが強くて、長く担当し、仲良くさせていただいていたJA計根別の営農部長さんに正直な気持ちを伝え、相談したところ、「一緒に頑張ろう」と快く言っていただけました。ようやく新規就農への第一歩を踏み出すことができたかと思いました。

その後、ファム・エイの社長にも自分の気持ちを伝えて了承をいただき、8年間勤めた会社を退職することとなりました。

計根別に限らずいろいろな酪農家さんが就農を後押ししてくれました。協力してくれた農協さんと良い関係を築くことができたのもやっぱりヘルパーとして活動してきたからこそだと思います。

酪農ヘルパーの仕事では、牛、作業も大事ですが、酪農家さん、各関係機関、農協、獣医さんや人工授精師さん、いろいろな方と出会い会話することが大事です。これにより自分が今後やりたいことが広がったし、ヘルパーをしていなければわからないこともすごく身につきました。この8年間で数多くのことを学ばせていただき、いい時間を過ごせたと思います。

◆新規就農までの道のり

ファム・エイを退職した後は、計根別地区の酪農家さんで約1年間、研修をさせていただき、その間に入植地選びや公社リース事業による改修工事等の打ち合わせを行いました。ちょうど収穫の時期と改修工事の打ち合わせ時期が重なってしまい、まだ牛もいない状態なのに毎日、昼も夜もほとんどない状態でした。それでも就農に向けて充実した日々を過ごせたと思います。

そして平成30年8月17日、事務上ではありますが、

念願の営農開始日となりました。60頭つなぎ牛舎で草は近隣の農家さんに機械を貸していただき、1番草、2番草ともにロールを収穫することができました。



初期投資ですが、牛舎自体が長く空いたものだったため改修等にかかなり費用がかかりました。

結婚・出産を機に退職したファム・エイ時代の後輩が「もしやるんだったら一緒にやってみたい」と言うてくれたので従業員として雇用しました。また、たまたま住居として新しい家と古い家、二軒あり古い家も住むことができたので元酪農家である両親も招いて作業人数を増やしました。初期投資が嵩んだ分、その後はできる限り自分たちで改修等を行い、コストを下げていきたいと考えています。

◆今後の展望

開始からまだ1年がたったばかりです。今月後半から2回目の分娩ラッシュが始まり、ほぼ毎日のように子牛が生まれてくると思います。1回目の時は、牛舎自体が寒く、衛生的にも十分ではなかったため、ひどい失敗をしました。今回は同じ失敗を繰り返さないよう改装して、2回目の分娩ラッシュに挑戦したいと思っています。

最後になりますが、長年勤めた酪農ヘルパーのおかげで地域の方々がすぐに助けてくれたり、手伝ってくれて本当に感謝しかありません。今後、軌道に乗り経営が安定したら、今度は自分がその立場にたち、次の世代の力になる、そんな酪農家を目指していきたいと思っています。

酪農ヘルパーから新規就農、やっとスタートラインに立ったばかりです。まだまだ地域の皆さんや両親に教えていただき、頑張っていきたいと思っています。

令和元年度 一般社団法人酪農ヘルパー全国協会 * 会長表彰受賞者 *

●技術に優れ、酪農ヘルパー就業経験5年以上の者

県名	氏名	年齢	所 属 団 体	勤続年数
北海道	結城 歩美	24歳	更別酪農ヘルパー有限責任事業組合	5年
北海道	内田美恵子	47歳	有限会社浜中町酪農ヘルパー組合	11年
青森県	二本柳勝正	47歳	下北地域酪農ヘルパー利用組合	7年
岩手県	折元 大樹	38歳	葛巻町酪農ヘルパー利用組合	15年
岩手県	佐藤 翔悟	28歳	岩手山麓酪農ヘルパー利用組合	9年
岩手県	山口 政志	43歳	いわて平泉酪農ヘルパー利用組合	18年
福島県	齋藤 直人	35歳	安達太良山麓酪農ヘルパー利用組合	13年
茨城県	仲野 健作	45歳	ひので酪農ヘルパー利用部	25年
茨城県	齊藤 光明	37歳	ひので酪農ヘルパー利用部	9年
栃木県	松本 裕功	34歳	酪農とちぎ農業協同組合	14年
栃木県	高久 和徳	44歳	栃酪酪農ヘルパー利用組合	10年
広島県	福重 昌宏	60歳	広島県酪農業協同組合	8年
広島県	木下 淳二	34歳	広島県酪農業協同組合	7年
愛媛県	新山 範人	48歳	喜多地区酪農ヘルパー利用組合	13年
熊本県	河津 攝	45歳	熊本県酪農ヘルパー利用組合	19年
熊本県	西川 佑	39歳	熊本県酪農ヘルパー利用組合	18年
大分県	中野 清司	58歳	県北地区酪農ヘルパー利用組合	29年

●酪農ヘルパー就業経験1年以上の者であって、新規就農した者

県名	氏名	年齢	所 属 団 体	勤続年数
北海道	鎌仲 誠也	26歳	稚内農協酪農ヘルパー利用組合	4年

令和元年度は、就業経験5年以上で優れた技術を持つ酪農ヘルパー17名、就業経験1年以上で新規就農した酪農ヘルパー1名、合計18名が会長表彰を受賞し、砂金甚太郎会長より表彰状が授与された。

砂金会長は「ベテランヘルパー17名と新たに酪農家としてスタートした1名、いずれも各地域におけるヘルパー事業の推進になくてはならない方ばかりです。皆様のこれまでの功績に対して心から敬意

と感謝を申し上げるとともに、今後も酪農ヘルパー事業の発展に一層のご尽力を賜りたい」と述べた。

受賞者を代表して中野清司さん（大分県・県北地区酪農ヘルパー利用組合・酪農ヘルパー勤続29年）が「このような表彰式を挙げていただき、感謝を申し上げます。今後はさらに決意を新たに、酪農ヘルパー事業の発展のため、職務を尽くす所存です」と謝辞を述べた。



砂金会長による挨拶



謝辞を述べる中野さん



優秀ヘルパー17名が受賞



令和2年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修について

酪農ヘルパー全国協会では、高度な技術を有し酪農家に信頼される酪農ヘルパー要員の育成を図る目的で平成3年より酪農ヘルパー専門技術員養成研修を実施しています。研修は毎年実施し、これまでに延べ3,400名余の酪農ヘルパーが受講してきました。

令和2年度も、初任者向けと中級者向けの2種類の養成研修を実施します。

初任者研修は研修Ⅰ（2週間コース）と研修Ⅱ

（1週間コース）があり、2週間コースは酪農の基礎知識を学ぶ講義と酪農家等実習のカリキュラムとなっています。1週間コースは座学講義が主体です。中級者研修は専門知識・技術のスキルアップを目指した研修となっています。

令和2年度の開催日程は下記のとおりですが受講申込の詳細等については、酪農ヘルパー全国協会ホームページをご覧ください。

●令和2年度酪農ヘルパー専門技術員養成研修 開催日程

【ご注意】下表は令和2年3月時点での開催予定日程であり、新型コロナウイルスへの感染の拡大状況によっては開催の延期や中止も想定されますので、必ず最新の情報を当協会ホームページにてご確認ください。

研修会場	種別	初任者研修Ⅰ	初任者研修Ⅱ	中級者研修
		期間2週間	期間1週間	期間1週間
ホクレン訓子府実証農場 （北海道訓子府町）		5/18～5/29 10/19～10/30		
北海道立総合研究機構 畜産試験場 （北海道新得町）			4/20～4/24 9/28～10/2	
北海道立総合研究機構 酪農試験場 （北海道中標津町）			5/25～5/29	
北海道農業協同組合学校 （J A カレッジ） （北海道江別市）			令和3年 2/15～2/19	令和3年 1/25～1/29
蔵王酪農センター （宮城県蔵王町）		8/31～9/11		
全酪連酪農技術研究所 （福島県矢吹町）			6/8～6/12	
中国四国酪農大学校 （岡山県真庭市）		11/9～11/20		

.....研修参加者の感想.....

令和元年度の酪農ヘルパー専門技術員養成研修は全国7会場で年間10回、99名の参加者を得て実施いたしました。研修後の感想文では、研修を通じて感じたことや将来の抱負など、前向きな声をたくさんいただきました。地域に欠かせない酪農ヘルパーとしてますますご活躍される皆さんの声をご紹介します。



●蔵王酪農センターで研修 Uさん

「牛がかわいいだけでは、やってゆけない」。大学卒業のときに言われた一言がしこりのように心に残っていた私は、酪農に携わる仕事を選び、牧場で従業員として働き、そして今「酪農ヘルパー」になろうとしている。研修先で出会った酪農一筋でやってきたような大先輩が「毎日が勉強」だと言う。その言葉に「学ぶことを怠ってきた自分」を反省した。牛たちを取り巻く環境が変わるなら、自分自身もまた変化する必要があった。私は牛が好きでこの仕事を選んだ。この研修で感じたことや学んだことを忘れないようにしたい。



●新得畜産試験場で研修 Sさん

自分はおそらくこの19人の研修生の中で1番、酪農の知識が乏しいと思う。普通科高校を卒業しその後2年間を動物関係の専門学校で学んだものの、まさか酪農の道に進むとは思わなかったもので、酪農ヘルパーという職業についての知識のなさにショックを受けた。立ち直れたのは、同じ研修生の言葉「今は分からなくていい。これから理解してゆくことだから、焦らずに」だった。この研修では、仕事として酪農家の方々と関わってゆくことの意味や責任、心構えを学ぶことができた。数年後、この中で一番知識に乏しかった自分がどう変わったのか、その答えを見つけに行こうと思う。

.....研修参加者の感想.....



●ホクレン訓子府実証農場で研修 Kさん

何の知識もなく酪農の世界に突然飛び込んで不安な日々を過ごしていた。それゆえ、今回の研修の話をいただいた時にはとても良い機会だと思った。酪農ヘルパーという仕事内容はとても奥が深く日々発見の連続だと先輩ヘルパーから聞き、研修中の北海道と地元の長野県の酪農環境の違いを実感しつつ、少しずつでも前進していくことが大切だと感じた。高齢化などによって離農してゆく現状を踏まえ、初心者ながら、地元の酪農が少しでも明るくなるよう心掛け、そして、酪農が衰退していかないよう支えていけたらと思う。

●新得畜産試験場で研修 Aさん

この牛は乳房炎だ、と発見しても、なぜ乳房炎になったのかまでは疑問に思うことはなかったけど、今回の研修で「乳房炎になる理由」について詳しく学ぶことができた。また、牛にとって粗飼料がどんなに大切な役割をしているのかも知ることができた。いままで普通にこなしてきたいろんな作業について、もっと深く考え、疑問に思うことはその理由を突き止めてゆくようにしたいと思う。



●新得畜産試験場で研修 Mさん

酪農に携わって7年ほどになりますが、牛の発情や泌乳のメカニズムなどを考えて仕事をしたことはありませんでした。ですが、酪農の知識を得てヘルパーの仕事をするのと知識なしに仕事をするのでは、とても大きな違いがあることをこの研修で実感しました。自分が目標としている「新規就農」を含め、酪農関連の仕事を今後も続けてゆくことに少し迷いもありましたが、今回の研修を通じ、少しだけ考えが変わったような気がします。

●全酪連酪農技術研究所で研修 Oさん

酪農ヘルパーになってまだ2ヶ月。農業大学校の2年間の「総復習」くらいの気持ちでこの研修に参加しましたが、知らなかったことや疑問が次々に湧いてきて、普段の勉強不足を痛感しました。私は酪農家になることを目指して、いろいろな農家の技術や良い牛の作り方などを知るために「酪農ヘルパー」になりました。今回の研修で得た知識や技術を今後の仕事に生かしながら、「酪農家への夢」もあきらめずに頑張りたいと思います。

就農相談イベント

「新・農業人フェア」 東京・大阪会場に出展

酪農ヘルパー全国協会は、令和元年度の1年間、農業関係の就業相談イベント「新・農業人フェア」のうち、東京・大阪会場に出展し「酪農ヘルパー」という仕事について紹介、そのやりがいや魅力をアピールしました。

新・農業人フェアは自治体や農業法人等が農業分野への就業と就農支援の相談を行う農林水産省後援の交流イベントです。来場者は参加費無料、入退場自由のため、漠然と農業に興味があるという方から、具体的に就職・転職先を探しているという方までさまざま、将来の情報収集のために高校生なども訪れています。



ブースを訪れた来場者に、酪農ヘルパーの概要と魅力を紹介する



職業認知度向上用のリーフレットを使って紹介

令和元年度は大阪会場（11月16日）、東京会場（1月25日）にブースを出展し、酪農家にとって必要不可欠な酪農ヘルパーの役割や業務、仕事の魅力を紹介、酪農ヘルパー要員確保

のための活動を行いました。また北海道をはじめとして各地の利用組合や県団体等も出展して酪農ヘルパー募集を呼びかけ、酪農に関心を持つ来場者が訪れました。

酪農ヘルパー全国協会では令和2年度も引き続き、フェアを通じて積極的な活動を展開する予定です。



令和元年度 酪農ヘルパー情報（令和2年3月発行）

一般社団法人 酪農ヘルパー全国協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1丁目37番2号 酪農会館6階

TEL. 03-5577-5135

FAX. 03-5577-5136

URL : <http://d-helper.lin.gr.jp>

E-mail : info@d-helper.lin.gr.jp